

令和2年度 委員会活動報告  
令和2年8月1日～令和3年7月31日

学術委員会

■構成メンバー(◎委員長、○副委員長)

- ◎三浦 稚郁子(公益社団法人地域医療振興協会)
- 明神 哲也(東京慈恵会医科大学)
- 若林 留美(東京女子医科大学病院)
- 大江 理英(大阪府立大学大学院)
- 加藤 尚子(Linkoping University)
- 角口亜希子(榊原記念病院)
- 仲村 直子(戸市立医療センター中央市民病院)
- 山内 英樹(東邦大学)
- 山田 緑(共立女子大学)
- 金子伊津子(横浜労災病院)
- 東雲 紀子(福島県立医科大学附属病院)
- 濱上亜希子(兵庫県立大学)

■活動の概要

3つの事情計画についてそれぞれ役割分担して行った。

1. 海外の循環器看護に関連する会との交流

<ACNAP: Association of Cardiovascular Nursing & Allied Professions への参加>

ACNAP(ヨーロッパ循環器看護・コメディカル学会)はヨーロッパの国々の看護学会が集まってできた学会であり、定期的に開催されるナショナルカンファレンスでは、毎回、参加国がプレゼンをして、看護学会のミッションや目的、学会活動、課題などを紹介している。

①ACNAP Online Networking Event: 2月12日に参加(加藤委員)

参加国はヨーロッパが主体であり、アジアの参加は少なく、日本からの参加は非常に歓迎されたため、海外の循環器領域のコメディカルと交流したいという会員には、気軽に参加できるいい機会であり、今後会員向けに積極的に情報公開していく。

② ACNAP NATIONAL SOCIETIES CONFERENCE CALL: 2月23日と4月27日と7月1日にオンライン参加(加藤委員)

本会議では各国の循環器看護学会の活動、ACNAPの活動やEuro Heart Care2021の紹介等がされた。本カンファレンスで、本学会の活動について5分程度の紹介をしてほしいと依頼があり、今後のカンファレンスで実施することとした。

また、所属する各国の学会へ、ガイドラインを広め浸透していくことを目的としたオンライン調査の依頼があり、本学会も会員向けに実施することとした。

③Euro Heart Care - ACNAP Congress 2021: 6月18・19日にオンライン参加(加藤委員)した。プログラムではテクノロジーやVirtualケア、COVID-19に焦点を当てたものが多く興味深かった。博士課程の研究を対象としたAwardセッションや臨床事例のAwardセッションもあり、多様な場で活躍する看護職にとって魅力的な学術集會と感じた。

2. 循環器看護の定義について

これまでの活動を振り返り、今後の方向性を検討した。

3. 教育セミナーのあり方の検討および教育セミナーの開催  
今年度はCOVID-19の影響があり、オンラインセミナー1

回のみで開催となった。1回の開催であり、対象のレベルを限定せずに、幅広い看護師の参加を目的とした内容とした。

【第38回教育セミナー】

テーマ: 見つけよう! やりがいのある循環器看護～「循環器病対策推進基本計画」を理解し、質の高い患者ケアにつなげる～

日時: 2021年6月27日(日)13:00～16:05 / (3時間5分)

開催方式: Zoom ウェビナー(Webinar)を用いたオンラインライブ配信のみとした。

オンラインセミナーのため、参加費を会員2000円、非会員4000円に変更した。

対象: 循環器看護に関わる看護師

参加状況:

応募者: 会員115名 非会員52名 計167名

ZOOMセミナー登録者 157名 内視聴者 151名

<プログラム>

13:00～13:05(5)オリエンテーション、開会挨拶

13:05～13:35(30)講義①「循環器病対策推進基本計画」って何?

講師: 磯部 光章 先生 榊原記念病院

13:40～14:14:10(30)講義② 循環器病の予防ー循環器看護師の挑戦

講師: 吉田 俊子 先生 聖路加国際大学

14:20～15:05(45)講義③ 循環器病患者のライフステージに合わせた支援ー循環器看護師の挑戦

講師: 落合 亮太 先生 横浜市立大学

15:10～15:55(45)講義④「循環器病対策推進基本計画」を踏まえて、今できていること、これからできること

講師: 林 亜希子 先生 北里大学病院

15:55～16:05(10)閉会挨拶、アンケート

今回の参加者は、会員が7割であり、かつ、臨床経験15年以上の何らかの専門・認定看護師などの資格を持った看護師が多かった。会員のメリットとして、多くの会員が参加出来るセミナーの開催も必要であるが、非会員の参加を促すような方法の検討も必要である。

以上  
(報告者: 三浦 稚郁子)

学会誌編集委員会

■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

- ◎岡田 彩子(日本赤十字看護大学さいたま看護学部)
- 田村 綾子(四国大学)
- 稲垣 美紀(摂南大学)
- 落合 亮太(横浜市立大学)
- 白水真理子(神奈川県立保健福祉大学)
- 三浦 英恵(日本赤十字看護大学看護学部)
- 宮松 直美(滋賀医科大学)
- 宮脇 郁子(神戸大学)

■活動の概要

本年度は3回ウェブ会議と2回のメール審議および複数回

の情報共有・情報交換を行い、以下の活動を行った。

1. 日本循環器看護学会誌の発刊(第16巻第2号)会議にて、校正、編集作業を行った。
2. 電子投稿・査読システムの運用評価・改善  
編集委員、査読者の情報交換が効率的にできるよう、論文投稿者が投稿時や査読期間中に留意事項を確認できるよう事務局担当者の対応を依頼、改善に努めた。また電子投稿システムの不具合に関しては学会誌編集委員会事務局担当者に対応を依頼し、問題修繕に努めた。
3. 投稿規程等の確認・改正  
今年度は投稿規定の改正は行わず、今後オンライン化に向けた著作件ポリシーに係る事項の検討を行った。今後、投稿者(筆頭者・共著者)の資格等の範囲やオープンアクセス等を視野に入れた規定内容の検討を継続していく。
4. 専任査読委員の増員  
専任査読者は、学会誌の質の担保を図るため、専任査読候補者の追加等を検討した。新たに3名、合計57名の専任査読委員を維持している(令和3年4月現在)。今後も随時、適任者を追加していく。
5. 学会誌への投稿促進のための活動  
第18回日本循環器看護学会の委員会企画は「はじめの一步」というテーマで、循環器看護を実践するためのはじめの一步、成果をまとめるためのはじめの一步、となる支援を目的として教育セミナーを行う。

その他日本学術会議協力学術研究団体の指定を受けることも学術誌への投稿促進の一助となること、また学術誌へのアクセスの容易さも投稿の活性化につながることを期待し、Jステージへの登録に向けて投稿規定の見直し検討をしていく予定となった。

以上  
(報告者:岡田 彩子)

#### 政策・診療報酬委員会

- 構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)
- ◎山田佐登美(川崎医科大学総合医療センター)
  - 竹原 歩(兵庫県立姫路循環器病センター)  
三浦稚郁子(公益社団法人地域医療振興協会)  
多留ちえみ(神戸大学大学院)  
山部さおり(三菱京都病院)  
戸沢 智也(獨協医科大学)  
藤井 利江(兵庫医科大学病院)  
水川真理子(神戸市看護大学地域連携・教育研究センター)  
渡邊裕美子(独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター)

#### ■活動の概要

1. 委員会活動
  - ・「心不全再入院予防指導管理料(未収載)」と「在宅患者訪問看護・指導料3(既収載)」についての医療技術提案書と「心不全再入院予防指導管理料(未収載)」についての要望書を作成し、看護系学会等社会保険連合会(看保連)を通して厚生労働省に提出する活動を行った。
  - ・令和2年10月28日、令和2年12月28日、令和3年3月9日、令和3年4月22日の4回、オンラインで委員会を開

催した他、メールで頻繁にやり取りしながら、令和3年4月12日に要望書を、令和3年5月6日に医療技術提案書を看保連に提出した。

- ・令和3年7月27日に厚生労働省からのヒアリングを理事長と政策診療報酬委員会委員長が受けた。いくつか質問事項があったため、理事長並びに委員間でメールのやりとりによって回答と根拠資料を作成し、8月2日に厚生労働省に提出した。医療技術評価のエビデンスになるデータ収集について検討したが実施には至らなかった。
2. 渉外活動
    - ・看保連の診療報酬体系あり方検討会に令和2年12月11日、令和3年3月5日の2回、オンライン参加(委員長)
    - ・看保連の看護技術検討委員会に令和2年11月27日、令和3年3月19日の2回、オンライン参加(委員長)
    - ・令和2年11月16日看保連の情報交換会にオンライン参加

以上  
(報告者:山田 佐登美)

#### 広報委員会

#### ■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

- ◎明神 哲也(東京慈恵会医科大学)
- 鷲田 幸一(兵庫県立尼崎総合医療センター)
- 坂本 明子(千葉県立保健医療大学)
- 戸田 美和子(倉敷中央病院)
- 中野 直美(慶應義塾大学病院看護部)
- 松本 幸枝(亀田医療大学)

#### ■活動の概要

1. 学会ホームページ・会員専用コンテンツの充実  
学会ホームページのコンテンツの確認をおこなった。次年度以降のホームページ改訂に向けた検討をおこなう上でのホームページの課題を抽出した。これらをもとに改定案の作成を進めた。
2. 会員の研究・臨床実践活動に関する広報活動推進  
ホームページでの研究助成のコンテンツの設定と配信をおこなった。また、各種更新ページの対応をおこない情報発信をした。

以上  
(報告者:明神 哲也)

#### 倫理委員会

#### ■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

- ◎池亀 俊美(榊原記念病院)
- 鷲田 幸一(兵庫県立尼崎総合医療センター)  
中野 直美(慶應義塾大学病院看護部)  
山田 緑(共立女子大学)  
樗木 晶子(福岡大学)

#### ■活動の概要

1. 令和2年度は、研究倫理申請が2件あり、倫理委員会

委員にて、メール会議による簡易審査を実施し、承認された。

2. 学会に関係する役職者および学術集会発表者などを対象とした「学術集会活動における利益相反に関する指針」の見直しを行った。利益相反指針の対象者は、「本指針は、利益相反状態が生じる可能性がある以下の対象者に対し適用される。1) 本会学術集会における発表の筆頭演者、2) 本会学会誌、刊行物における発表を行う全ての著(下線部分が新規追加)。また、「利益相反の細則」について提案された細則案の下記について、加筆・修正が行われ、承認された。「5. 申告するべき内容 8) その他の報酬(研究および学術活動とは直接関係のない旅費や贈答品など)については、一つの企業・団体などからの報酬が年間10万円以上支払われた場合。その他、個人情報保護や倫理綱領に関する問題はなかった。

以上  
(報告者:池亀 俊美)

#### 国内交流委員会

- 構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)  
◎田村 綾子(四国大学)  
○三浦稚郁子(公益社団法人地域医療振興協会)  
遠藤美代子(東京大学医学部附属病院)  
竹原 歩(兵庫県立姫路循環器病センター)  
仲村 直子(神戸市立医療センター中央市民病院)  
前田 靖子(名古屋ハートセンター)

#### ■活動の概要

1. 本法人の国内の循環器看護関連法人・学会・研究会などを中心とした諸団体との交流をはかるため、メール会議を5回開催し、下記の関連学会とのジョイントシンポジウムの開催の承認、座長の推薦を行い、関連団体からの当学会の名称利用、協力依頼について審議した。

#### ●開催済み

- ①第85回日本循環器病学会学術集会(2021年3月28日～29日とオンデマンド配信)におけるジョイントシンポジウム『地域を含めた心不全のチーム医療:急性期病院と地域のネットワーク』で座長:三浦稚郁子氏を推薦。

#### ●開催予定

- ①第18回日本循環器看護学会学術集会(2021年10月9-10日)における他学会とのジョイントシンポジウム((座長:山中原治氏を推薦、演者:遠藤美代子氏を承認)  
②第59回日本人工臓器学会大会(2021年11月25-27日)における他学会とのジョイントシンポジウム(座長:池亀俊美氏を推薦、演者:竹田悠人氏、小中野和也氏を承認)  
③第19回日本循環器看護学会学術集会(2022年10月1-2日)における他学会とのジョイントシンポジウム2演題(⑦日本糖尿病教育・看護学会『糖尿病慢性合併症・大血管障害のある患者の看護』(座長:村内千代氏を推薦、演者:大串晃弘先生、山崎優介先生を承認、⑧日本フットケア・足病変医学会『動脈閉塞性疾患による下肢血流障害のある患者の看護』座長:藤木悠先生を推薦、演者:森小津恵先生を承認)

#### ●審議事項

- ①第57回日本循環器病予防学会学術集会(2021年5月28日～6月15日)における後援名義使用と告知協力の書面依頼があつて承認した。

以上  
(報告者:田村 綾子)

#### 選挙管理委員会

- 構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)  
◎宇都宮明美(京都大学)  
大江 理英(大阪府立大学大学院)  
岡田 明子(北里大学看護学部看護システム学)  
正垣 淳子(神戸大学)  
辻井 由紀(地方独立行政法人たつの市民病院機構 たつの市民病院)

#### ■活動の概要

1. 代議員選出・役員選出規程の一部改定を理事会に提案し、承認を得た。  
2. 次年度選挙に向けてのスケジュール案を検討した。  
以上  
(報告者 宇都宮明美)

#### 総務委員会

- 構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)  
◎齊藤 奈緒(宮城大学)  
○若林 留美(東京女子医科大学病院)  
小泉 雅子(東京女子医科大学)  
林 亜希子(北里大学病院)

#### ■活動の概要

- 下記について、メール会議および2回のweb会議を実施した。  
1. 入会申請者の確認  
2. 各種費用支払いおよび令和2年度中間予算執行状況確認  
3. 若手研究助成事業(事業開始、審査委員会立上げ、審査承認)  
4. 指名理事等を含む役員選出に関する規定類の見直し  
5. 学術研究協力団体への申請に向けた学術委員会と共同調査  
6. 会員登録情報の見直し・整備  
7. 事業オンライン化の環境整備  
8. 会員ニーズ調査及び会員確保のための広報のあり方  
9. 令和2年度理事会(対面およびweb)の準備・運営。令和3年度第1回定時社員総会、理事会の準備。  
(報告者 齊藤奈緒)